

令和元年度第2回総合教育会議 次第

日時：令和2年1月30日(木)
午後4時00分～
場所：東庁舎2階大会議室

議 題

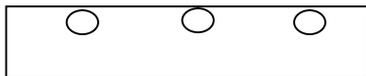
- 1 岡崎市教育振興基本計画（教育ビジョン）の改訂について 資料1
- 2 子どもの多様性に対応した校内フリースクール（校内適応指導教室）設置について 資料2
- 3 GIGA スクール構想の対応について 資料3

令和元年度第2回総合教育会議 配席図

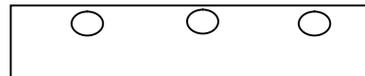


出入口

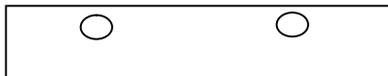
事務局



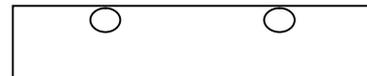
事務局



教育委員会 教育委員会
学校指導課長 総務課長



企画課長 財政課長



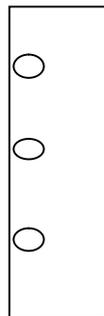
教育監 教育部長



総合政策部長 財務部長



福應 委員



岡田 委員

安藤 教育長



小出 委員

上原 委員



内田 市長

出入口

岡崎市教育振興基本計画（岡崎市教育ビジョン）の改訂

1 趣旨

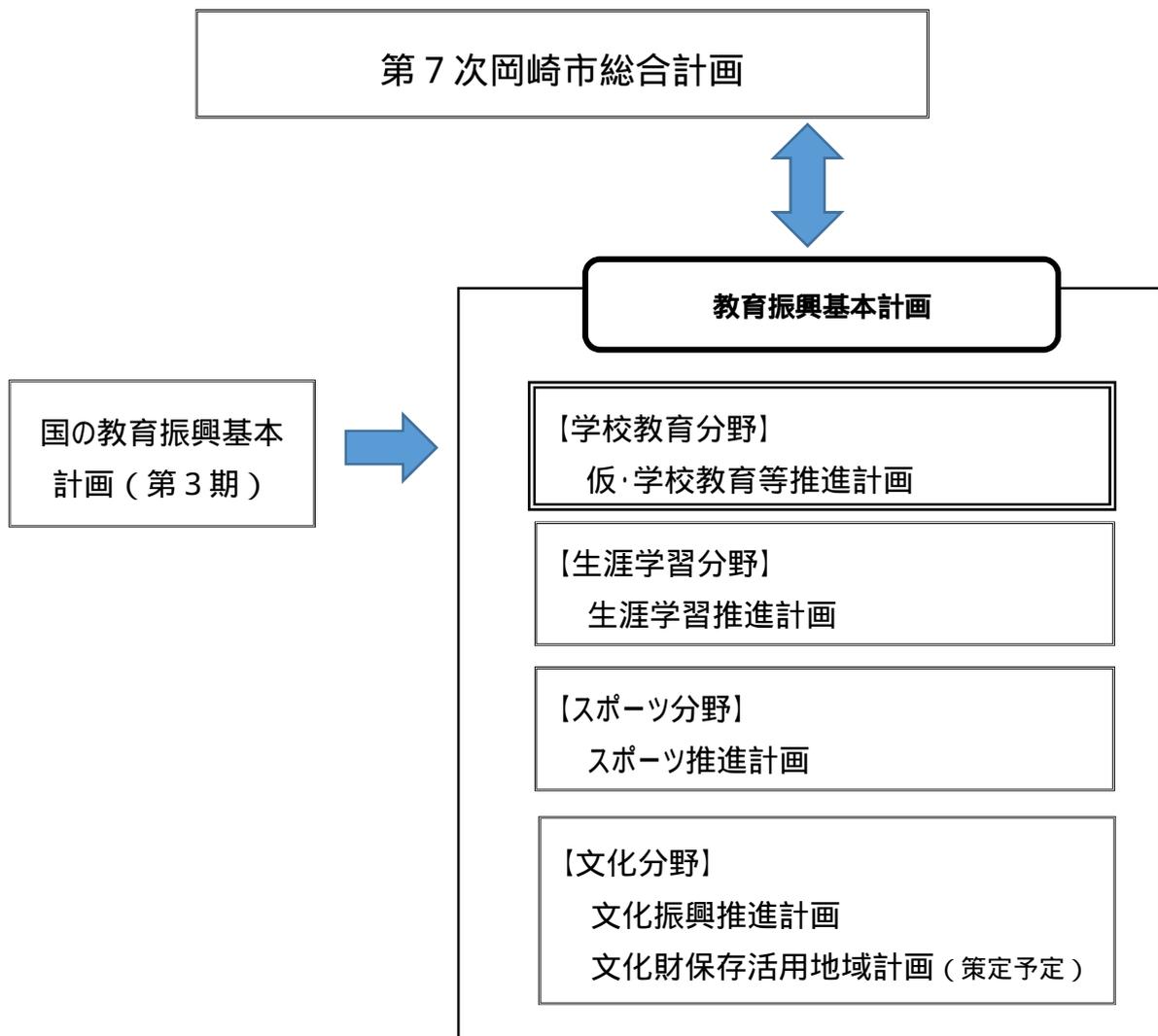
平成29年1月策定の現計画は、令和2年度（2020年）で計画期間が終了するため、改訂を行う必要がある。

2 計画の位置付け

教育振興基本計画は、教育基本法第17条第2項に基づく、教育の振興のための施策に関する基本的な計画である。

次期の教育振興基本計画は、学校教育分野、生涯学習分野、スポーツ分野、文化分野の各計画をもって岡崎市教育振興基本計画として位置づける。

なお、現行の教育ビジョンは、令和2年度をもって廃止するが、新たに策定する学校教育と社会教育の分野に特化した仮・学校教育等推進計画（以下「新計画」という。）にその理念を引き継ぐものとする。



3 計画の期間

令和3年度から令和7年度までの5年間

4 スケジュール

令和元年度

12月 教育委員会議で教育振興基本計画の位置づけと新計画の骨子について説明（意見聴取）

1月 総合教育会議で教育振興基本計画の位置づけと新計画の骨子について説明・協議

3月 教育委員会議で新計画の素案について説明（意見聴取）

令和2年度

8月 教育委員会議・総合教育会議で新計画案について説明（意見聴取）

9月～10月 パブリックコメントの実施、意見集約
市PTA役員からの意見聴取、意見集約

11月 教育委員会議で新計画の最終案について説明（意見聴取）

12月 教育委員会議で新計画の議決・策定

1月 総合教育会議で教育大綱について協議・決定

仮) 岡崎市学校教育等推進計画の骨子

第1 計画の策定にあたって

1 策定の趣旨

- 少子高齢化の進行、高度情報化や国際化の進展、技術革新に伴う超スマート社会 (Society5.0) の到来が予想される中で、社会的・経済的な格差の広がりや人間関係の希薄化、子供たちの規範意識や家庭・地域の教育力の低下など課題が山積している。
- 将来を担う子供たちが社会にたくましく踏み出すためには、自ら学び考え行動し、個性と想像力が豊かで、人間性と思いやりの心にあふれる知・徳・体の調和がとれた人間形成が必要となる。社会の一員としての役割と責任を果たすために欠かすことのできない資質形成を目指すために計画を策定する。

2 計画の位置づけ

- 第7次岡崎市総合計画の教育分野のうち学校教育等に関して、今後の方針とその実現のために必要な施策を明らかにするものとして位置づける。
- 生涯学習推進計画、スポーツ振興計画、文化振興推進計画、文化財保存活用地域計画とともに教育基本法第17条に基づく本市の教育振興基本計画として位置づけられる5つの計画のうちの1つとする。

3 計画期間

- 令和3年度から令和7年度までの5年間

4 策定にあたり考慮すべき事項

- 国の教育振興基本計画
- 新学習指導要領

第2 岡崎市の教育が目指すもの

1 基本理念

- 「学びの未来を切り拓き 次代を生きる子どもの育成」

2 基本目標

- 基本目標1：個性を生かし、資質・能力を高め、未来を拓く力を培う
- 基本目標2：子どもの特性に対応したきめ細やかな指導・支援を行う
- 基本目標3：家庭、地域、学校との連携・協働を推進する
- 基本目標4：教職員の資質向上を図り、豊かな学びを実現する「チーム学校」体制を構築する
- 基本目標5：新しい時代の教育に対応した未来の学校づくりを推進する

第3 施策の展開

1 重点的に取り組む事項

(1) 学び方改革の推進

一斉授業からの脱却、個に応じた学習展開、アクティブ・ラーニングなど、学び方の多様化が進み、様々な形態の教育が生まれています。技術革新に伴い、ものの見方・考え方が変容していく中で、これからの時代を生きる子供たちに必要な能力を習得させることが求められています。

【主な取組み】

- ・新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習指導
- ・未来を見据えた新たな学び方の研究
- ・教員の授業力向上と授業改善の推進

(2) 子どもの多様性を認め、個を伸ばす教育の充実【学校指導課】

少子高齢化の進行、国際化の進展性の多様性など子供たちを取り巻く環境は目まぐるしく変化しています。それぞれの教育的ニーズを把握し、多様な社会に対応した、きめ細やかな指導・支援を行うことが求められています。

【主な取組み】

- ・不登校児童・生徒への支援の充実
- ・いじめ対応の徹底
- ・外国人児童・生徒への指導・支援の充実
- ・特別な支援を要する子どもへの早期対応
- ・教育的ニーズに応じた多様な学びの充実

(3) 教育の情報化の推進

Society5.0 の到来を見据え、第3期教育振興基本計画では、情報活用能力の育成、ICT活用の促進、校務の情報化及びそれらを実現するための基盤となるICT環境整備の促進が示されています。児童生徒が将来の予測が難しい社会を生き抜くためには、情報や情報技術を受け身で捉えるのではなく、主体的に選択し活用していく力が求められています。

【主な取組み】

- ・ICTの活用による情報活用能力の育成
- ・「岡崎市プログラミング学習」の継続実施と改善
- ・教員のICT活用指導力の向上
- ・校務の情報化と情報セキュリティの強靱化
- ・Okazaki スマートワークの推進

(4) 教職員の働き方改革の推進と教職員の育成【学校指導課】

学校教育の充実、子供たちの健全育成のためには教職員が心身ともに健康な状態で

働くことができる環境づくりが大切です。保護者や地域の理解を得ながら、これまで見られた教職員の勤務時間外従事時間を削減しつつ、充実した教育を展開する取組が求められています。

【主な取組み】

- ・勤務時間外従事時間削減の推進
- ・教職員一人一人の業務効率化の推進
- ・多様な働き方の保障とワークシェア
- ・効果的な研修の実施（E-ラーニングの活用など）
- ・多様なスタッフの配置・活用（チーム学校）
- ・事務の共同実施の拡大

(5) 学校施設の効率的な整備と有効活用

学校施設の老朽化は深刻化しており、安全で快適な教育環境の整備を計画的に進める必要があると同時に、大規模な宅地開発等により急激に児童数が増加する学校については、教室不足解消のための校舎整備が求められています。

特にプールの老朽化は深刻であり、今後の学校プールのあり方について研究する必要があります。

【主な取組み】

- ・長寿命化のための大規模改修（岡崎小ほか）
- ・教室不足解消のための校舎増築（岡崎小・六名小・緑丘小）
- ・学校プールのあり方についての研究

2 施策の体系

基本目標1 個性を生かし、資質・能力を高め、未来を拓く力を培う

- 基本施策 「確かな学力」を育む教育の推進
- 基本施策 「豊かな心」を育む教育の推進
- 基本施策 「健やかな体」を育む教育の推進
- 基本施策 「未来を生き抜く力」を育む教育の推進

基本目標2 子どもの特性に対応したきめ細やかな指導・支援を行う

- 基本施策 いじめ不登校対策の充実
- 基本施策 外国人児童生徒等への支援の充実
- 基本施策 特別支援教育の推進
- 基本施策 多様な教育ニーズへの対応の強化

基本目標3 家庭、地域、学校との連携・協働を推進する

- 基本施策 特色ある学校づくりの推進
- 基本施策 学校評価の実施と活用

- 基本施策 地域力を生かした学校支援の推進
基本施策 家庭教育・地域教育の支援の充実

基本目標4 教職員の資質向上を図り、豊かな学びを実現する「チーム学校」体制を構築する

- 基本施策 教職員の資質・能力の向上
基本施策 専門性に基づくチーム体制の構築
基本施策 一人一人が力を発揮できる環境の整備
基本施策 学校におけるマネジメント機能の強化

基本目標5 新しい時代の教育に対応した未来の学校づくりを推進する

- 基本施策 学びを支える教育環境の基盤整備
基本施策 Society5.0を見据えた情報化の推進
基本施策 リスクに備えた施設整備と教育活動の推進
基本施策 先進的な教育環境の構築

子供の多様性に対応した校内フリースクール設置について

1 背景

全国的に不登校児童生徒の増加が問題視されており、岡崎市においても大きな課題である。令和元年10月25日に、文部科学省から「不登校児童生徒への支援の在り方について」が通知され、新たな支援の基本方針が出された。その内容は、『不登校児童生徒への支援は、「学校に登校する」という結果のみを目標にするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す必要があること 抜粋』となっている。これは、不登校児童生徒への支援が、不登校児童生徒にとって、義務教育の段階で、次につながる進路選択や目標設定などができ、社会で生きる力が育まれることを目的としている。

また、子供たちは多様化しており、こうした子供たちを理解し、その特性や才能、能力に応じて、それぞれの可能性を伸ばすことができる支援も必要とされる。

そこで、社会的な自立を目的とした新しい不登校支援の取組と個に応じた指導・支援を充実させた校内フリースクールの設置を進めたい。

2 子供の多様性に対応した校内フリースクール設置概要

(1) パイロット校の設置

- ・令和2年度にパイロット校を設置し、その成果や課題等をもとに、市内中学校への開設拡大を目指す。
- ・令和2年度のパイロット校設置予定は中学校3校とする。

(2) 校内フリースクールの内容

- ・生徒の支援を行う担任を1名配置する。県の児童生徒支援対応教員加配を活用する。
- ・適応教室補助者1名を配置する。
- ・支援のために「個別支援計画」や「児童生徒理解・支援シート」を活用し、組織的・計画的に支援を行う。
- ・ICT等を活用した学習支援を積極的に進め、多様な教育の機会を確保する。

3 期待される効果

- ・集団生活になじめない等、子供の多様性に対応することで、不登校の未然防止につながる。
- ・利用生徒に安心感が生まれ、自己肯定感が育み、自尊感情を高めることができる。
- ・適応指導教室に担任を配置して運営することで、個の学習状況に応じた指導・配慮をより充実することができる。
- ・不登校児童生徒に対して、これまで以上に組織的・計画的に支援を講じることができる。

4 設置に向けた計画

- ・校内フリースクール設置導入の趣旨説明 令和元年12月9日 12月校長会にて
- ・設置希望校集約 令和元年12月16日まで
- ・設置希望校調査 令和元年12月17日から12月23日まで
- ・設置学校決定 令和元年12月26日
- ・設置準備委員会開催 令和2年1月より3月までに継続的に随時開催

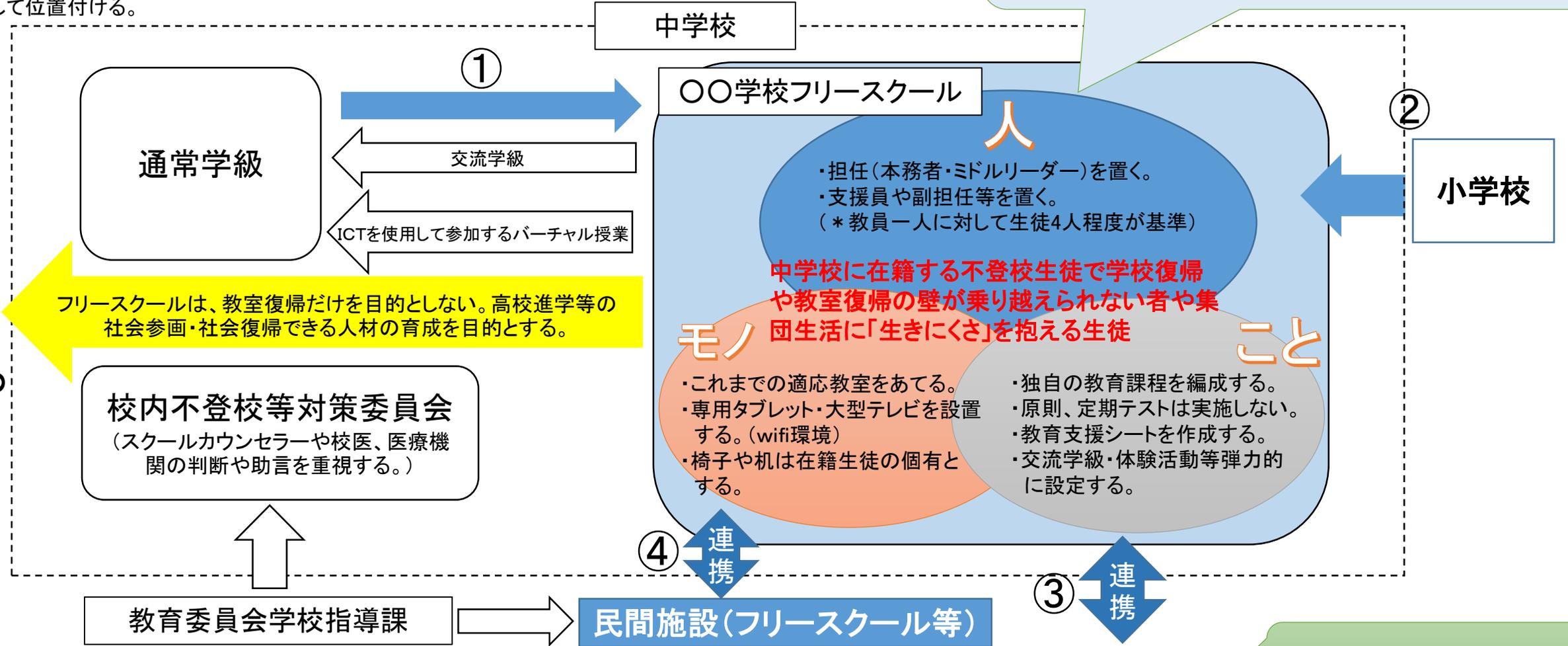
子供の多様性に対応した校内フリースクール

- ◇不登校生徒等が、社会で生きる力を身に付け、義務教育を終える過程・環境を公立学校内に設置する。
- ◇通常学級、特別支援学級と同等の扱いとしながら、適応指導というネガティブなイメージとならないよう「フリースクール」と呼ぶ。校内フリースクールに通う生徒にとっては自分の学級として扱う。
- ◆これまでの校内外の適応指導教室は、学校復帰・教室復帰を最終目的としていたことから、個に応じた指導・支援に限界や無理があった部分もある。そこで、最終的な目的を社会的な自立と定め、新しい不登校支援の取組として位置付ける。

受け入れ方法

- ① 通常学級から(保護者の希望を汲み、校内不登校等対策委員会で判断)
- ② 小中連絡会や支援委員会との連携 または 保護者による申請
- ③ ハートピアとの連携
- ④ 民間施設との連携

社会的な自立(高校進学等) 次のキャリアステージへのステップアップ

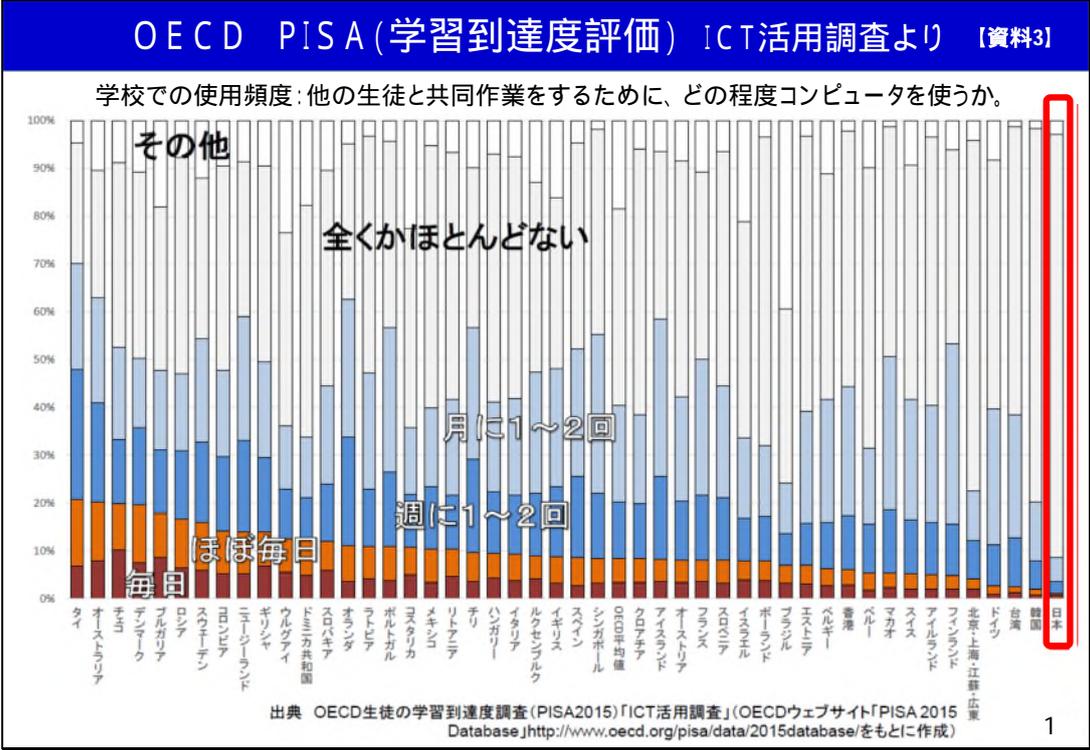


フリースクールは、教室復帰だけを目的としない。高校進学等の社会参画・社会復帰できる人材の育成を目的とする。

- 国(文部科学省):不登校児童生徒への支援の在り方について(通知)(R1 10. 25)を支援の基本方針とした。
- 【不登校児童生徒への支援に対する基本的な考え方】
- ・不登校児童生徒への支援は、「学校に登校する」という結果のみを目標にするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す必要があること。(抜粋)
- フリースクール等に関する検討会議
- ・不登校児童生徒による学校以外の場での学習等に対する支援の充実について(H29通知) ●不登校児童生徒による学校以外の場での学習等に対する支援の充実報告(H29)
- 岡崎市:不登校児童生徒が相談・指導を受けている民間施設についての岡崎市ガイドライン(試案)

- 指導方針
- ・生活のリズムをつくる
 - ・コミュニケーションを図る
 - ・自主的な学習をする

市のフリースクール『ハートピア』



文部科学省「GIGAスクール構想の実現」の成立経緯

【10月10日 衆議院予算委員会 萩生田文部科学大臣答弁】

今後とも、関係省庁や産業界と連携しながら、令和の時代にふさわしい、と言いますのは、**平成の時代はパソコンやタブレットは学校にあったらいい**という教材でしたけれども、**いよいよ令和の時代は、なくてはならない教材**として、しっかりICT環境の実現を図ってまいりたいと思います。

↓

【11月13日 経済財政諮問会議 安倍議長発言】

パソコンが1人あたり1台となることが当然だということを、やはり**国家意思**として、明確に示すことが重要。

↓

【12月5日 閣議決定 安心と成長の未来を拓く総合経済対策】

国の将来は何よりも人材にかかっている。初等中等教育において、Society5.0という新たな時代を担う人材の教育や、特別な支援を必要とするなどの多様な子供たちを誰一人残すことのない一人一人に応じた個別最適化学習にふさわしい環境を速やかに整備する。

「高速大容量ネットワーク環境」+「令和5年度までに1人1台端末」の整備

文部科学省「GIGAスクール構想の実現」 事業概要

文科省 方針

Society 5.0時代を生きる子供たちにとって、誰一人取り残されることのない、**公正に個別最適化された学び**を全国の学校現場で持続的に実現させる。
令和時代のスタンダードな学校像として、全国一律のICT環境整備を行う。

1,296億円 (1)校内通信ネットワーク整備事業

児童生徒1人1台端末の利用を可能とする高速大容量の通信ネットワークを整備する。
国1/2補助。(補正予算債100%)
補助は令和2年度中のみ。
固定式の充電保管庫と電源工事を含む。
有線LAN工事と同時施工の場合は無線LAN工事を含む。



一体的
整備

1,022億円 (2)児童生徒1人1台端末の整備事業

端末本体代の**4.5万円/台**を補助。
設定・保守・ソフト・周辺機器等は、補助対象外。(市独自負担)
児童生徒数の2/3の台数までが補助対象。
令和3年度以降の補助は現時点では不明。
(令和5年度までに1人1台環境を達成させる計画の提出は必須)

各自治体は、**令和5年度**までに全学年で**1人1台環境**を達成させる。(補助措置要件)
令和4年度から**全国学力・学習状況調査**は、**オンライン式**で行われる可能性。(1/16説明会)

3

「岡崎版GIGAスクール構想」 目標と方針

文科省 背景

新学習指導要領の実施と主体的対話的で深い学びの推進
OECD最低レベルの教育ICT環境の抜本的改善

目標

一人一人が確実に自分の端末を使いこなすための**公教育最先端の活用環境**を構築することで、本市の**多様性のある全ての子供たちが**、自らの特性を生かし、**個別最適化された学習**に取り組めるようにし、Society5.0時代をたくましく生き抜く資質・能力を育成する。



方針

1 ICT環境の整備

令和2年度中に**全67校の校内ネットワーク(有線+無線)の整備**を目指す。
一定学年以上で個人に貸与し、「Myタブレット」として**フル活用**する。
ICT支援員の拡充を通して、1人1台環境の円滑な運用をサポートする。

2 学び方改革

一斉授業からの脱却と、学習者主体の授業への転換。(小中各1校で研究中)
「岡崎市プログラミング学習」(実施中)をはじめとした、ICT活用授業の推進。
「Myタブレット」を生かした**「子供eラーニング」**(家庭学習との連携)の研究。

3 働き方改革

「Okazakiスマートワーク」の推進。(職場外アクセス機能、高速エコプリンタ等)
定例校長会議や研究発表会、教育研究大会での**ペーパーレス化**。(実施済)
eラーニングによる研修やMicrosoftクラウドを活用した協働的な業務の推進。

岡崎市 背景

多様な子供たちが特性を生かして学習できる場を保障
グローバルな未来社会で自己実現できる岡崎の子供の育成

4

「岡崎版GIGAスクール構想」 ICT環境整備案

(1) 校内通信ネットワーク整備事業

有線LAN + 無線LAN整備 【国1 / 2補助】

- ・小中32校について令和2年度中の整備を目指す。
- ・簡易な電源拡充工事と充電保管庫の設置を含めて行う。
- ・1人1台端末で動画視聴が可能な環境とする。(文科省方針)
- ・災害避難時の屋内運動場の公衆Wi-fiを全校対応可能に。

無線LAN整備 【国補助なし】

- ・有線LANが整備済みの小中35校が対象。
- ・と同様の無線LAN環境を令和2年度中に整備完了する。

(2) 児童生徒1人1台端末の整備事業 【国補助 4.5万円 / 台】

- ・岡崎市として導入実績のあるiPadを採用する。
- ・一定学年以上で、「Myタブレット」として個人に貸与する。
- ・教師用端末も整備し、授業でフル活用できるようにする。

5

「Myタブレット」で実現できる個別最適化学習のイメージ

ハイブリッド教科書(紙 + デジタル)

ほとんど教科書にQRコードが掲載され、デジタル教材を利用できる

動画の視聴、ビデオチャットでの交流



学習ソフト(AIドリル、無料アプリ)

個々の学習履歴から最適な問題を提示
自分のペースで学べる

日本ハズル 9x9カード
自分の興味関心に応じて学べる

学び合い機能(教育用SNS等)

互いの意見をリアルタイムにやり取りできる

画面共有、大型モニターへの表示

授業への参加度が高まり、主体的な学びとなる

Office365(ワード・パワポ等)の利用

既存の包括ライセンスで1人1ライセンスを利用可
まとめや発表ができる

岡崎市は多様な子供たちを誰一人取り残すことのない個別最適化された学びを実現する

6